

FENIX OUTDOOR INTERNATIONAL AG社、 サプライチェーンの 新たな高みへと

登っていく

Manhattan SCALE

オペレーション

本社はツーク（スイス）。ルートヴィヒスラスト（ドイツ）とオーロラ（米国コロラド州）の2つの大型倉庫（ドイツ）とオーロラ（米国コロラド州）に2つの大きな倉庫があります。加えて、いくつかのローカル倉庫（a.o. ノルウェー）

マンハッタンソリューション

Manhattan SCALE™
WMOS

FENIX
OUTDOOR INTERNATIONAL AG



課題

フェニックス・アウトドア・インターナショナル社（Fenix社）は、全世界の倉庫業務を単一の倉庫管理システムでまかない、複雑なプロセスを高度に自動化して制御できるシステムを探していました。

ソリューション

Manhattan SCALEを使用することで、Fenix社はそれぞれの特徴を持つ異なるフローを倉庫内で効率的にルーティングすることができます。

進捗状況と結果

新しいWMSは、Fenix社の急速な成長を促進しています。使いやすさのおかげで、同社は自ら設定を調整することができるため、新たな機会や開発に迅速に対応することができます。

「徹底したソリューションと市場の知識が、現在そして未来の倉庫管理における最高のパフォーマンスを達成するための決定的な要因となるのです。」

MARCEL GERRITS, GLOBAL SUPPLY CHAIN DIRECTOR FENIX OUTDOOR

プレミアムブランドのためのプレミアムサービス

Fenix社は、卸売、小売、オムニチャネル、eコマースなど、複数の流通チャネルをサポートするサプライチェーンを構築しています。Manhattan SCALE™は、Fenix社に、手動および自動の倉庫作業を効率的に行う最新の倉庫管理システム（WMS）を提供しています。

森の中の爽やかな散歩からスカンジナビアの高地での数日間のトレッキングまで、Fenix社は、自社ブランドである Fjällräven、Hanwag、Brunton、Primus、Tierra、Royal Robbinsを通じてウェアと装備を提供しています。これらの人気商品は、Globetrotter、Naturkompaniet、Partioaitta、Friluftslandといった名前の、スカンジナビアとドイツにある 0の直営店をはじめ、世界中の何千ものアウトドアショップで購入することができます。

プレミアムサービス

Fenix社の戦略には、サプライチェーンが重要な役割を果たしています。「私たちは、商品や情報の流れを可能な限り効果的かつ効率的に処理できるサプライチェーンを構築しています。それによって、プレミアムブランドにプレミアムなサービスを提供することができるのです。そのためには、効率的で迅速かつ競争力のあるプロセスを用いて、柔軟性、信頼性、積極性のあるオペレーションを実現しています。Fenix社のグローバル・サプライチェーン・ディレクターであるMarcel Gerrits氏は、「そしてもちろん、これらすべてにおいてサステナビリティが重要な役割を果たしています」と述べています。

Fenix社のサプライチェーンには複数の倉庫があり、その中でもオーロラ（コロラド州）とルートヴィヒスラスト（ドイツ）にある倉庫が最大の倉庫です。これらの倉庫から商品は、国際的に展開している小売店や地元のアウトドアショップの配送センターに送られます。

これらの倉庫から商品は、国際的に事業を展開している小売店、地元のアウトドアショップ、オンラインで注文をした消費者の配送センターに送られます。このように、注文数、数量、パッケージなど、フローが大きく異なる複雑なオペレーションを行っています。

拡張性

Fenix社はこれらの倉庫でのオペレーションをコントロールするために、Manhattan SCALEに依存しています。その重要な理由は、SCALEが倉庫内のさまざまなフローを柔軟かつSCALEが倉庫内のさまざまなフローを簡単に処理できることです。当初、Fenix社はDynamics AX09 / AX12 R3に統合された自社開発のWMSを使用していましたが、これでは今日の要件にプロセスを適応させるのに十分な柔軟性が得られませんでした。Manhattan SCALEは、その豊富な機能により、より多くの最適化の可能性を提供します。Manhattan SCALEはマイクロソフトのプラットフォーム上に構築されており、Dynamics AX09 / AX12 R3と高度に統合されていますが、これはFenix社にとって必須の要件でした。

Fenix社はまず、デンバー近郊にある11,000平方フィートの手動倉庫であるコロラド州レイビルにManhattan SCALEの導入を選択しました。6か月後には、追加のカスタマイズをすることなく、標準バージョンのWMSを導入することができました。

「レイビルでのオペレーションのデジタル化は緊急に必要でした。紙のピッキングリストからバーコードスキャンへの切り替えは、効率と品質の面で多くのメリットをもたらします。40人の従業員でより多くの仕事ができるようになり、コスト削減にもつながっています」とGerrits氏は説明します。



ポーチ・ソーター

Fenix社はレイビルでの経験を活かし、ハンブルグの南東120kmに位置するLudwigslustの倉庫にManhattan SCALEを導入しました。ルートヴィヒスラストは、30,000平方メートルの広さを持つ新しい自動倉庫です。この倉庫は、オンライン注文の配送と、ドイツとスカンジナビアの店舗への供給に使用されています。この場所には5万点の在庫があり、100人の従業員が年間450万点の商品を出荷しています。

この倉庫の心臓部はロングポーチ・ソーターで、3つの中2階にある6つのオーダーピッキングゾーンをつないでいます。このシステムは、1時間あたり4,500個の処理能力を持ち、ピーク時には1日あたり21,000件のオーダーラインを処理することができます。「このポーチ・ソーターはバッチピッキングを可能にするもので、オーダーピッカーはピックアップした商品を25,000個のポーチに入れた後、11台のワークステーションにオーダーごとに自動的に仕分けされます。速く動く商品の多くは、最初にピックする必要がないように、直接ポーチにストックされます。ワークステーションでは、ポーチから商品を取り出し、梱包して出荷の準備をします。」とGerrits氏は語る。

ビッグバン

Manhattan SCALEは、オーダーピッキングのプロセス全体をサポートします。WMSがインテリジェントにバッチを構成するため、ピッカーの移動距離を最小限に抑えることができます。バーコードスキャンを使用して、それぞれのピッキングはWMSで検証され、処理されます。Gerrits氏は「しかし、すべての商品がポーチに収まるわけではありません。大きな商品は倉庫内の別の場所に置かれ、異なる方法でピッキングされます。WMSは、オーダーピッキングプロセスの最後に、すべてのアイテムがオーダーごとに統合されるようにします。」と説明します。

もう一つの大きな利点は、返品処理です。「返品を効率的に処理することは、小売やeコマースにおいて非常に重要です。ポーチソーターとWMSを組み合わせることで、これが可能になります」。

WMSは、ポーチソーター、コンベヤ、エレベータなどを制御する倉庫管理システムと完璧に通信します。注文品の発送については、SendIT社のキャリアマネジメントシステムと連携しました。「すべてがまったく新しいものだったので、課題もありました。本稼働を数ヶ月延期しなければなりませんでした。ビッグバンの後、倉庫全体が期待通りに機能しました。時には故障もありましたが、いつもすぐに解決しました。」

ヘルプはなし

Fenix社にとって魅力的なのは、Manhattan SCALEの設定のしやすさです。「私たちの倉庫では、それぞれの注文パターンや仕様に応じて異なるフローを処理しています。私たちの倉庫では、それぞれの注文パターンや仕様に応じて、さまざまなフローを処理していますが、もしプロセスにステップを追加するような要求があれば、マンハッタン・アソシエイツの助けを借りることなく、自分たちでWMSを修正することができます。倉庫内でのオーダーの流れをコントロールできるので、迅速な切り替えと柔軟な運用が可能になりました。」



導入にあたっては、マンハッタン・アソシエイツからFenix社への知識の伝達にも十分に注意が払われました。プロジェクトが進むにつれ、Fenix社はより多くの主導権を握ることができるようになりました。この詳細なレベルがWMSのサポートに貢献しました。

現在、Fenix社はあらゆる面でこのソリューションを実質的に所有しているとGerrits氏は説明します。「戦略の一環として、私たちは戦略の一環として、私たちはすべての倉庫で1つの統一されたWMSを持ちたいと考えています。そのため、ノルウェーの小規模でシンプルな倉庫にもManhattan SCALEを導入しました。そのため、ノルウェーにある小規模でシンプルな倉庫にもManhattan SCALEを導入しました。LouisvilleとLudwigslustの知識と経験のおかげで、私たちはほとんど自力でこれを行うことができました。」

将来の大きなプラン

Fenix社はLudwigslustの施設に将来的に大きな計画を持っています。2019年に最初のホールを試運転した後、倉庫は現在2回拡張されています。Gerrits氏は、それだけでは終わらないと考えています。「当初、倉庫では主に自社店舗への供給に重点を置いていました。それがうまくいっている今、さらに多くのブランドの在庫をLudwigslustに移し、卸売りやeコマースの活動から得られる他のフローを統合したいと考えています。最終的には、Ludwigslustが当社のヨーロッパにおけるハブになるはずですよ。」

そのためには、マンハッタンの倉庫管理ソフトウェアが今後も重要な役割を果たしていきます。

「マンハッタン・アソシエイツは、小売と卸売の仕組みを熟知している企業です」とGerrits氏は述べています。